

# ア ジ ア 日 誌

11 月 21 日 — 1 月 25 日

## 世 界・国 連

11 月 22 日

◆国連総会、圧倒的多数で、コンゴのカサブ大統領に代表権を与えることを決定。

11 月 24 日

◆パリのOECD準備委員会、協約草案について合意に達したと発表。

11 月 28 日

◆国連A・A25カ国、植民地独立に関する新決議案を提出。

12 月 3 日

◆国連のA・A諸国代表はコンゴにこれ以上の流血を防ぐ措置をとるようハマースホルド事務総長に要請した。

12 月 5 日

◆カラチで国際商工会議所と国際実業家会議のアジア極東問題会議が開かれ日本から40人の代表が参加。

12 月 6 日

◆世界81カ国共産党会議、声明を発表。

12 月 9 日

◆国連総会経済委、低開発国援助促進を決議。

◆国府、国連経済社会理事会に落選。

12 月 10 日

◆国連のA・A21カ国、総会政治委にアルジェリア問題に関する決議案提出。

◆アラブ連合、アラブ連盟経済会議にアラブ共同市場設置促進案提出。

12 月 12 日

◆SEATO 緊急会議、ソ連のラオス空輸を非難する声明を発表。

12 月 13 日

◆OECD設立会議パリで開く。

12 月 14 日

◆国連総会、植民地解放宣言を可決。

◆OECD（経済協力開発機構）憲章に20カ国が調印。

12 月 20 日

◆国連総会、モリタニア加盟討議来年に持ち越しを決定。

12 月 29 日

◆A・A諸国民連帯評議会、1月にルムンバ支援方法検討のための緊急会議を開くと発表。

1961年 1 月 2 日

◆SEATO 理事会開き、ラオス情勢を検討。

1 月 5 日

◆エカフェ第3回域内貿易促進会議開く（5日～14日）。

1 月 9 日

◆キャンベラで汎太平洋、東南アジア婦人会議開く。

1 月 11 日

◆アジア・アフリカ経済機構会議、アラブ連合のアスワンで開き、A・A諸国の経済関係緊密化および経済に関する研究所設立などを討議。

1 月 15 日

◆A・A婦人会議カイロで開催（15～19日）。

1 月 17 日

◆石油生産国会議（イラン・イラク・サウジアラビア・ベネズエラ・クウェート・カタール）カラカスで開き、石油世界価格維持方策を協議。

◆SEATO 常設理開く。

1 月 18 日

◆韓国、国府、南ヴェトナム、フィリピンのアジア反共4カ国外相会議フィリピンで開く（18～19日）

1 月 24 日

◆ハマースホルド事務総長、ルムンバ前首相の復活をカサブ大統領に

要請。

## 東 ア ジ ア

11 月 21 日

◆韓国民民主党合作派21議員が与党に復帰。

11 月 23 日

◆韓国の憲法改正案民議院を通過。

11 月 24 日

◆北鮮帰還促進案、週1回、1200人で合意。

11 月 26 日

◆周恩来中国首相、ラオス使節団を中国に招請。

◆韓国参議院の改憲表決、議員のボイコットでお流れ。

11 月 28 日

◆韓国参議院、憲法改正案を可決。

11 月 29 日

◆尹韓国大統領、改正憲法を公布。

11 月 30 日

◆中国とキューバ、経済協力協定、61年度貿易協定書、科学技術協力協定に調印し、中国からキューバへ2億4000万ルーブルの借款を供与すると発表。

◆モンゴルとカンボジア国交樹立。

◆日本とルーマニア、貿易支払い協定調印。

◆鉄鋼業界と来日中のインド貿易公団代表、来年度のインド鉄鋼石輸入を175万トンに決定。

12 月 1 日

◆モスクワ滞在中の劉少奇中国主席、フ首相と会談。

12 月 2 日

◆韓国民民主党、統一問題で北鮮の回答を求める談話を発表。

12 月 3 日

◆毛沢東中国主席、北ヴェトナムの

ホー・チミン大統領と会談。

12月4日

◆チベットのラサで、人民協議会開く。

12月6日

◆北鮮訪問中のキューバ代表团、北鮮と反米闘争と相互協力強化などの共同声明発表。

◆韓国経済使節団、西ドイツに出発。

12月7日

◆日本の農業指導団第1陣、カンボジアへ出発。

◆中国の劉少奇主席は、モスクワで人民公社制度を今後も推進すると述べた。

◆キューバとモンゴル、外交関係樹立。

12月9日

◆第3回中印国境会談終わる。

12月10日

◆日比友好通商航海条約調印。

12月11日

◆ニッケル精練5社、61年1月にセレベスのニッケル鉱開発調査団派遣を決定。

12月12日

◆中国とアフガニスタン、友好相互不可侵条約の批准書交換。

◆中国・カンボジア友好協会、北京で設立。

12月13日

◆国府代表团、南ヴェトナムと経済協力について話し合うためサイゴンに出発。

12月14日

◆中共、ビルマ中共国境協定を批准。  
◆中国・ビルマ両国軍、国境地帯に残存する国府軍に対する共同作戦を実施。

12月15日

◆中国・インドネシアの2重国籍に関する条約、ジャカルタで調印。  
◆国府は1961年を「東洋訪問、中国観光の年」とすることを発表した。

12月16日

◆中国とソマリア、外交関係樹立。  
◆FAOに資料提供のため、台湾の全島の農業調査始まる。

12月19日

◆中国とカンボジア、友好不可侵条約調印。

12月23日

◆中共の友好使節団キューバ訪問。  
◆オーストラリア、中共に24万トンの小麦を輸出。

◆池田首相、外相と農相にライス・バンク構想の具体的検討を指示。

12月25日

◆ソ連、ガーナおよび北鮮に対する援助協定に調印。

12月26日

◆韓国地方選挙施行。  
◆外務省当局、柳元韓国駐日大使の政治亡命を認めずと通告。

12月27日

◆米政府、国府のダム建設援助に4000万ドルの借款供与。

12月28日

◆日本とパキスタン、友好通商条約調印。

◆中国の陳毅外相、英ソ両国外相に対し米国のラオス干渉を阻止するよう要請。

◆韓国、アメリカの余剰農産物受け入れ協定に調印。

12月30日

◆周恩来首相ら、中国代表团、国境条約批准書交換のためビルマ訪問。  
◆中国、豪州小麦の追加買い付けを発表。

1961年 1月4日

◆中国とビルマ、両国の国境条約批准書を交換。

1月5日

◆韓国、韓国再建長期計画を発表。  
◆モンゴルとネパール、外交関係樹立。

1月7日

◆鄭韓国外相、東南ア共同市場創設を提唱。

1月9日

◆中国とビルマ、中国がビルマへの8000万ドルの借款供与などを含む経済協力協定および支払い協定締結。

1月11日

◆国府軍当局、将総統の長子が秘密

にラオスを訪れたとの外電を否定。

1月12日

◆外務省、コロムボ計画会議第12回年次会議の第9次年次報告書発表。

1月13日

◆日本漁船、李ライン外で韓国に捕わる。

1月14日

◆中共党第8期中央委第9次全体会議開く(14—18日)。

◆日本政府、韓国の日本漁船捕獲に正式抗議。

◆日本政府、ビルマ賠償再検討案を手交。

1月15日

◆中国の陳毅外相、ラオス問題のため新ジュネーブ会議開催を英ソに提案。

1月18日

◆ソ連のフ首相、日ソ協会使節団に対し、日本に中立傾向が強まれば、ハボマイ、シコタン返還条件緩和を考慮するとのべた。

◆中国・ネパール国境合同委、第2回会議、北京で開く。

1月19日

◆ユーゴ、アルバニア訪問中の周恩来中国首相のユーゴ非難演説に抗議。

◆ボールズ次期米国務次官、米国は台湾を守ること、および現状では中国承認に反対であると述べた。

1月22日

◆中共、マニラにおけるアジア4カ国外相秘密会議を対ラオス干渉と攻撃的軍事ブロック結成を企図するものと非難。

◆キューバ、中共に砂糖および銅鉱石を売却する協定に調印。

1月23日

◆日本とブラジル、文化協定に調印。  
◆日本肥料業界、インドに15億円相当の肥料輸出を決定。

1月24日

◆中国、濠州から2万トンの小麦粉を輸入。

1月25日

- ◆第5次日韓予備会談再開。
- ◆中国政府、食糧不足克服のため都市でも野菜栽培するよう呼びかけ。

## 東南アジア

11月21日

- ◆オランダ政府、インドネシア人小部隊が西イリアンに侵入したと発表。
- ◆インドネシア陸軍当局、同国部隊の西イリアン侵入説を否定。

11月22日

- ◆ラオスのプーマ首相、パテト・ラオと会談し、中立政策で一致したとの共同声明を発表した。また同首相は中共、北ヴェトナムとの外交関係樹立は考えていないと述べた。また同首相はソ連経済援助につきソ連大使と協議する意向を表明。

11月23日

- ◆ラオスのプーマ首相、「ソ連は近くビエンチャンへの食糧および石油の空輸を開始する」と発表。
- ◆米政府、ラオスに対し「ソ連援助は中立を脅かす」と警告。
- ◆DLF、南ヴェトナムの水力発電建設に1270万ドル援助供与。

11月24日

- ◆ラオスの米大使館の飛行機、國王へのプーマ首相の連立政府樹立討議開催を要請する連絡に向かう。

11月25日

- ◆米政府、ラオスのプーマ首相のパテト・ラオとの連立政権を支持しないと声明。

11月26日

- ◆ラオスのノサバン前国防相、平和交渉に応じると声明。
- ◆外モンゴル政府、プーマ・ラオス政府を承認。
- ◆ラーマン・マラヤ首相、西イリアン問題解決のための中央委設置を提唱。
- ◆インドネシアのスバンドリオ外相、オランダがマラヤと共に「西イリアン問題を国連に任せる」と声明したのに反対し、インドネシアはこの問題に対する国連介入を拒否する

と述べた。

11月27日

- ◆カンボジアとチェコ、友好・文化協力協定調印。

11月28日

- ◆マカパガル・フィリピン副大統領来日。
- ◆カンボジアのシアヌーク国王、モスクワ訪問。

11月29日

- ◆ラオスのプーマ首相、事態收拾のため議会代表団をサバナケットの右派反乱軍本部に派遣。
- ◆ラオスのプーマ首相、12月10日に政府代表団長として中国を訪問すると発表。

11月30日

- ◆ラオスのノサバン前国防相、サバン・バッタナ国王が軍の総指揮に当たることを受諾したと発表。
- ◆フィリピンのマカパガル副大統領は親善旅行のため非公式に台湾を訪問。
- ◆インドネシア人民工業省、日本の賠償による紡績工場建設計画がまとまったと発表。

12月1日

- ◆ラオスのプーマ首相、ノサバン派は全政党による連立政権樹立に同意したと発表。

12月2日

- ◆北ヴェトナムとキューバ、外交関係樹立。
- ◆ジャカルタ軍事法廷、米人飛行士に死刑判決。

12月3日

- ◆ラオス援助のためのソ連輸送機ビエンチャン着。
- ◆ラオス政府、ノサバン軍との戦闘にタイが直接介入していると非難。
- ◆訪ソ中のシアヌーク・カンボジア首相はプーマ首相によるラオス騒乱の終結をのぞむとのソ連・カンボジア共同声明を発表。

12月4日

- ◆バッタナ・ラオス国王は、ノサバン派の提案を入れて国民議会を王都ルアンブラバンで開くことに同意した。
- ◆北ヴェトナム代表団、経済協定交

渉のため中ソへ出発。

12月5日

- ◆ラオスのプーマ首相、米政府に対しノサバン軍への武器供与を止めるよう頼んだと発表。
- ◆ラオスのプーマ首相、中共・北ヴェトナム訪問を中止。

12月6日

- ◆マラヤのラーマン首相は議会で、インドネシアの一部指導者と新聞の敵対的態度のため、西イリアン問題調停を放棄すると述べた。

12月8日

- ◆ラオスのビエンチャン地区軍司令官コウブラント・アブハイ大佐、プーマ首相の合法政府支持と極左派の行動阻止のためのクーデターをおこし同市を軍事的に支配。

- ◆フィリピンのガルシア大統領、マラヤ訪問。

12月9日

- ◆ラオス政府、緊急会議で厳正中立を再確認。
- ◆ラオスのプーマ首相、カンボジア着。
- ◆コン・レ大尉軍、アブハイ司令官の反乱を鎮圧し首都を奪還。
- ◆南ヴェトナム、北ヴェトナムおよびラオス国境守備隊に非常警戒命令。

12月10日

- ◆ラオスのプーマ首相、全権を軍に委任してカンボジアに逃避。また国会議員24人がサバナケットに到着。
- ◆ラオス軍司令部、ソントン・ブタムボン將軍ら軍部6人委員会の設置を発表。
- ◆パテトラオの発表によると、ラオスで撃墜された偵察機から米軍人4人が発見された。
- ◆南ヴェトナム軍、このほど共産軍と激戦。

12月11日

- ◆フィリピン商業会議所のアントニー会頭、日比友好条約に反対の意向を表明。
- ◆ラオスのキニム・ボルセナ情報相ら左翼系4閣僚暫定内閣の成立と国家最高委解体を発表。
- ◆ラオスのコン・レ大尉、ノサバン

將軍にビエンチャンを無防備都市にすることを提案。

#### 12月12日

◆タイ外務省、タイがラオス問題に介入しているとの北ヴェトナムの非難を否定。

◆ラオス国民議会の過半数の議員、プーマ内閣不信任を決議。

◆アユブ・カーン・パキスタン大統領来日。

#### 12月13日

◆ラオスのノサバン軍首都に突入。

◆ラオス国民会議、ブン・オン殿下を首班とする親西欧内閣を任命。

◆パテト・ラオ、全国にゲリラ戦を命令。

◆国連インドネシア代表、同国コンゴ派遣軍の引き揚げを声明。

#### 12月14日

◆ラオスのバクナ国王、首相ブン・オン殿下を承認。

#### 12月15日

◆米國務省、ラオスのブン・オン新政府支持を声明。

◆カンボジアのシアヌーク首相は訪ソ旅行の帰途、北京に到着。

#### 12月16日

◆ラオスのブン・オン新首相、首都解放を発表。

◆ラオスのブン・オン政府、米國へ援助要請。

◆訪中中のカンボジアのシアヌーク殿下、周恩来総理と会談。

◆カンボジアとタイ、両国国境紛争解決の協定に合意。

◆インドネシアの難波漁船員3名、南太平洋で日本船に救助さる。

#### 12月17日

◆ラオスのプーマ中立政府首相、パテト・ラオと反共軍に休戦会談を提唱。

◆米國務省、ラオス問題に関するソ連の対米非難に反論し、ソ連を非難する覚え書きを手交。

◆北ヴェトナム政府、1954年のインドシナ問題のためのジュネーブ会議参加国に対し、ラオス状況検討のための国際会議開催を呼びかけ。

◆カンボジアとインドネシア友好条約の批准書交換。

#### 12月18日

◆米、ブン・オン新ラオス政権を正式承認。新内閣は執務開始。

◆インドネシアの巡航見本市船、アジア太平洋沿岸諸港訪問に出発。

#### 12月19日

◆ヒューム英外相、ラオス新首相ブン・オン殿下に広い基盤に立つ政府をつくるよう申し入れ。

◆米政府、米國はラオスのブン・オン政権の要請にこたえて武器を輸送すると発表。

◆アブラモフ・ラオス駐在ソ連大使、ラオスるる。

◆インドネシアと北ヴェトナム、文化協定調印。

#### 12月20日

◆北ヴェトナム、24カ国首脳にラオスの中立主義と平和を守る適切な措置をとるよう要請。

◆ビルマ政府、ラオス紛争解決のため国連中立国設置を提案。

#### 12月21日

◆ラオスのブン・オン新政府、新政策を発表し、SEATO 加盟も考慮すると述べた。

#### 12月22日

◆ソ連、英國にラオス国際監視委復活につき協力要請。

◆インドネシアのナスチオン参謀総長、西イリアンでの戦争準備のためソ連援助により3軍を増強すると発表。

#### 12月24日

◆ソ連、北ヴェトナムに1200万トン相当の技術・経済援助を承認。

◆北ヴェトナムのファン・バンドン首相、英ソ両国外相に対しラオス国際監視委活動の復活を提案。

◆ラオスのプーマ前首相、ラオス国際監視委復活に賛成。

#### 12月25日

◆インドネシア、米國と7200万ドル相当の食糧その他建設に対する援助協定に調印。

◆インドネシアのナスチオン国防相、国内の反徒にそなえて来年度兵力増強すると発表。

#### 12月26日

◆ラオスのバクナ国王、ブン・オ

ン新政府を承認し、プーマ中立政府の解散を正式に布告。

◆ラオス政府、ソ連の干渉に抗議。

#### 12月27日

◆カンボジアのシアヌーク首相、中國より帰国の途につく。

◆カンボジアのシアヌーク首相、ラオス平和会議にジュネーブ平和会議参加国のほかに隣接するタイ・ビルマ・ヴェトナム3國を加えるよう提案。

◆インドネシア政府、オランダ人所有の製薬会社國有化を発表。

#### 12月28日

◆ラオスの米大使館、米機がソ連機の銃撃を受けたと発表。

◆インドネシアのスバンドリオ外相、ソ連からの武器買い付け増加のため訪ソ。

#### 12月30日

◆米政府当局、国際監視委復活を拒否。

◆ラオス政府、北ヴェトナム軍の侵入を発表。

#### 12月31日

◆北ヴェトナム当局および駐タイ米大使館、北ヴェトナム軍のラオス侵入説を否定。

#### 1961年1月1日

◆北ヴェトナム政府、「ラオスのブン・オン政府は米およびSEATO援助要請のため北ヴェトナムのラオス侵入説をふりまいている」と非難。

◆ラオスのハテト・ラオ軍、フォンサリ、サムネリ、シェンクソンの3拠点を占拠。

◆インドネシア8カ年計画を正式に開始。

#### 1月2日

◆ハテト・ラオ指導者スファスボン殿下とフォルセナ氏、プーマ前首相に帰國を要請。

#### 1月3日

◆ラオスの特別国会開き、首相は閣僚名簿を提出。

◆ラオス政府は国連の同國代表に対し、ソ連の反徒武器援助問題の国連提議を訓令。

◆米國務省、相当数の北ヴェトナム

人がラオス領に降下したと発表。

◆ラオス問題につき、北ヴェトナムは米援助停止を要求。フィリピンは国連警察軍派遣、英印は監視委再開を主張。

◆タイ政府、ラオスへの北ヴェトナム軍介入をはじめて指摘。

◆インドネシア政府、1戸当たり所有耕地を20ヘクタールに制限する条例を公布。

◆訪ソ中のナスチオン・インドネシア国防相ら、ソ連代表団と会談。

1月4日

◆ラオス議会、ブン・オン政府を信任。

◆ラオスのブーマ前首相、ソ連政府にラオス問題に関する国際会議開催を要請。

1月5日

◆インドネシア軍司令部、北スマトラ、メダンで3紙の発行を停止。

◆オランダ政府、西ニューギニアにおけるインドネシアの脅迫を非難。

1月6日

◆ハーター米国務長官、米政府はラオス国際監視委復活を支持すると発表。

◆来日中のセラノ・フィリピン外相、小坂外相に同国のカガヤン峡谷鉄道建設に資金援助を要請。

◆訪ソ中のスバンドリオ・インドネシア国防相、ソ連と西イリアン合併支持を含む共同声明発表。

1月7日

◆ラオスのブン・オン政府、国際監視委復活に条件つきで同意。

◆米政府、ラオス白書を発表。

◆インドネシア、ソ連から4億ドルの借款をうける協定に調印。

◆インドネシア、同国が米国から受けとる米綿の加工をインドの会社加工させる契約を結んだ。

◆インドネシアのナスチオン国防相訪印。

1月9日

◆バンコックの外交官筋の情報によれば、ソ連はパテト・ラオへの物資援助を中止。

1月10日

◆アイゼンハワー米大統領は、この

ほどラオス問題につきネルー首相に書簡を送り、米国はラオスを西欧防衛同盟に引き入れたり、軍事基地を作ったりする意図のないことを確認。

◆カンボジア、ラオス問題で国際会議開催を提案し、ソ連、仏、北ヴェトナムは同提案を受諾。

1月11日

◆ラオスのブーマ前首相、新政府の帰国要請を拒否。

◆ラオスの政府軍、米国製飛行機でパテト・ラオを猛爆。

◆インドネシアのスカルノ大統領、西イリアン解放を要求する非政治的機構の設立を決定。

◆インドネシア軍司令部、社会主義系新聞『ペドマン』ほか関係出版物を永久発行停止。

◆インドネシアのナスチオン国防相、ソ連からの武器買い付けに伴い、同国兵がソ連でその取り扱いの訓練を受けると述べた。

1月12日

◆インドネシア軍当局、セラム海のパトロールを強化すると発表。

◆インドネシアのナスチオン国防相、カラチ訪問。

1月13日

◆南ヴェトナム政府はヴェトナム国際監視委に対し、北ヴェトナムからラオスへの武器移動を中止させるよう要請。

◆ラオスのブン・オン政府、仏軍事顧問団の引き上げおよびセノ基地の返還を要求。

◆ラオスのコン・レ大尉、平和交渉の条件にブン・オン殿下の辞職を要求。

◆英、インド、カナダ3カ国、ラオスに現地調査団派遣を計画。

◆カンボジアのラオス問題に関する国際会議提案に対し、米政府はこれを拒否、インドはより緊急な措置として監視委復活を提唱。

1月14日

◆インドネシアとソ連、ソ連からインドネシアへ原子炉2基供与などの原子力平和利用に関する協定に調印。

◆インドネシア政府、21の会社を民族化計画のための検査のため国家管

理し、また外人居住者子弟の学校新設を禁止。

1月15日

◆カンボジア内閣、総辞職。

1月16日

◆ラオス政府、パテト・ラオの攻撃にそなえて首都移転を準備。

◆ラオスのフォルセナ情報相とパテト・ラオ、反ブン・オン軍事委を設け、シエンクワン州に州政府樹立を宣言。

◆インドネシアのナスチオン国防相帰国。

1月19日

◆ラオス駐在米援助代表部長は、今後の対ラオス援助は全面的に軍事援助にきり替えると語った。

◆米当局、ラオス経済援助代表部駐在員を大幅削減。

◆米国、ラオスに練習機2機を供与。

1月20日

◆インドネシア当局、43のホテル、商店などオランダ企業を国有化。

1月21日

◆カンボジアのシアヌーク首相は、周恩来中国首相あての書簡の中で、ラオス問題のための国際会議案を撤回。

◆ラオス政府、北ヴェトナム正規軍3000が越境侵入したと発表。

◆ラオス問題解決のための国際監視委復活案、英国からソ連へ提出。

◆フィリピン自由党、11月の大統領選挙候補にマカバガル現副大統領を指名。

1月22日

◆北ヴェトナム外務省、同国軍のラオス侵入説を否定。

◆オーストラリア政府、ラオス市民救援のため5000ホンズ贈与を決定。

1月25日

◆モロッコとインドネシア、国連本部に同国派遣軍引き上げを通告。

◆西イリアンで、オランダの統治に反対する暴動おこる。

南 ア ジ ア

12月1日

◆パキスタンのアユブ・カーン大統領、ソ連と石油開発協定締結のため代表団が訪ソすると述べた。

12月3日

◆日本政府、インドに対し協力方針を通告。

12月4日

◆ビルマ訪問中のアユブ・パキスタン大統領、ウ・ヌー・ビルマ首相と両国国境問題解決のため必要な措置をとることに同意した旨の共同声明を発表した。

12月5日

◆DLF、インドに1億1410万ドルの借款供与。

◆アユブ・カーン・パキスタン大統領ジャカルタに到着、スカルノ大統領と会談。

12月6日

◆インド議会、ネール政府に予防拘禁法の3年間更新を許可。

◆セイロン政府、農民、中小企業の利用を目的とした国民銀行を資本金600万ルピーで設立。

12月7日

◆ビルマ上院、中国・ビルマ国境条約を批准。

12月10日

◆パキスタンとインドネシア文化協定に調印。

◆アユブカーン、パキスタン大統領インドネシア訪問の旅を終えるにあたって、スカルノ大統領と共同声明を発表。

12月12日

◆インドのネール首相、上下両院の演説で、国連安保理がコンゴにおける国連軍事活動の強化を要求し、インドは現在コンゴからの撤兵は考えないと述べた。

12月13日

◆燃料資源相を団長とするパキスタン代表団、ソ連に地下資源調査を依頼のためモスクワに出発。

◆パキスタンとアラブ連合、新航空協定締結。

◆パキスタンのアユブ・カーン大統領、池田首相に対し、対パキスタン投資増加を要望。

12月15日

◆ネパールのマヘンドラ国王、政府の実権を握るとともに国会解散、首相ら閣僚の逮捕を命令。

12月16日

◆ネパールのマヘンドラ国王、集会・政治的宣伝を禁止。

◆カトマンズ各紙、コイララ政府解任に抗議して発行停止。

12月17日

◆インドの1960年の米生産高は3100万トンの大豊作と農林省が発表。

12月18日

◆ネパールで両院議長など政治指導者の逮捕続く。

12月19日

◆日本訪問のアユブ・カーン・パキスタン大統領帰国にあたり、日本・パキスタン共同声明発表。

12月20日

◆インドのネール首相は議会で、英ソ両国はラオス国際監視委再開に原則的に同意したと述べた。

◆駐印・ソ連大使、ソ連はインドの石油工業発展を援助すると語った。

◆DLF、東パキスタン水利電力開発局に230万ドル借款供与。

◆ウ・ヌー・ビルマ首相、同国コンゴ派遣軍引き上げを発表。

12月22日

◆インド、綿布価格を3～5%引き下げることに決定。

◆パキスタン代表団はソ連の関係当局と石油・地下資源開発援助について具体的な話し合いにはいった。

12月23日

◆インド上院、印パ国境協定に基づき西ベンガル州の一部をパキスタンに割譲する法案を可決。

◆インドのバント内相、中共支持者取り締まり法改正案を提出。

◆米英両国、長期にわたってインドに2300万ポンドの開発資金借款を許可。

◆ネパールのマヘンドラ国王、近く真の民主主義発展に必要な新措置をとると発表。

◆ビルマ貿易代表団、北朝鮮訪問。

1月24日

◆インドのネール首相、「現在引退の考えはない」と発表。

12月25日

◆国連特別基金、インドの鉱物資源調査センターに69万5000ドル供与。

◆ソ連、セイロンの10カ年計画援助のため4000万ルーブルの借款供与。

◆パキスタンに最初のラジオ・アイソトープ・センター開所。

12月26日

◆ネパールのマヘンドラ国王、国王を首相とする新内閣を任命。

12月27日

◆インド・アフリカ学生協会第9会議バンガロールで開く。

◆インドのカシミール州政府は、同州で石炭、石油、ガスその他鉱物の大鉱床が発見されたと報告した。

◆スウェーデンの技術援助相、パキスタン訪問。

12月28日

◆第4回全インド青年会議、インドの外交政策支持を決めて閉会。

12月30日

◆インダス川水利条約の批准書、インド、パキスタン両国で調印。

◆ビルマ政府、中国軍がビルマ領に侵入したとの報道を否定。

1961年 1月2日

◆インドのウタル・ブラデシでインド科学会議開く。

1月3日

◆米政府、インド第3次5カ年計画に5000万ドルの借款供与する協定に調印。

1月4日

◆インド政府、駐印ソ連大使館員のスパイ活動に対し抗議申し入れ。

1月5日

◆ネパールのマヘンドラ国王、全政党活動禁止令を布告。

1月7日

◆インド国民会議派全国大会、外交政策、第3次5カ年計画など党の政策を承認。

◆カルカッタで、ラオスにおけるアメリカ政策を非難する共産主義者の

デモおこる。

1月8日

◆スエーデンの家族計画・厚生相、カラチを出発してセイロンに向かう。

1月9日

◆全インド貿易連合会議、ゴア等外国領を解放するためのあらゆる措置をとるよう政府に要求する決議を採択。

◆第1回国際農業フェア、カルカッタで開く。

◆カシミールの3カ年計画、協同組合、開墾、道路開発などにつき計画期以前に目標を達成したと発表。

1月10日

◆インドに西部州とラジャスタンを結ぶ新鉄道開通。

1月11日

◆ソ連、パキスタンの石油資源調査に対し無条件の援助を申し入れ。

◆第13回パキスタン科学会議、ダッカで開く。

1月12日

◆インドス水利条約のための資料、ニューデリーで交換さる。

1月13日

◆FAOの米に関する諮問委、ニューデリーで開く。

◆ネパール前首相の弟、M. P. コイラ氏釈放さる。

1月14日

◆インド当局は中国とビルマに対し、両国国境協定はインド領を侵犯していると抗議。

1月15日

◆パキスタン当局、中国はパキスタンとの国境正式画定の申し入れを原則的に受諾したと発表。

1月16日

◆インドのトロンベイに第2原子炉開所。

◆パキスタンのアユブ・カーン大統領訪独。

◆ビルマは、日本依存を減らすため中共から大量の製品輸入をする協定を締結。

◆ユーゴ、パキスタンに1000万ドルの資本財提供の借款協定締結。

◆ブータン学生代表団、カルカッタ着。

1月17日

◆ビルマ貿易代表団、中国訪問。

1月18日

◆西独、パキスタンに1億5000マルクの借款供与。

◆ソ連、セイロンのタイヤ工場建設を援助。

◆ネパール政府は北東部に反乱があったとの報道を否定。

1月19日

◆ネパール首相と皇太子、ニューデリーでネール首相と会談。

1月20日

オーストラリア、インドにコロンボ・プランによりミルク5000トンを購入。

1月21日

◆英女王夫妻インド訪問。

◆英デリー・ヘラルド紙記者会見で、インドのネール首相は引退の意向を表明。

◆アメリカ、パキスタンのダム建設計画に3000万ルピーの追加援助を供与。

◆ガーナとイスラエル、組織化および職業指導分野における協力協定結ぶ。

## 西 南 ア ジ ア

11月29日

◆米国務省、米・イスラエル両国は1962年6月で米国の対イスラエル援助打ち切りに同意したと発表。

11月30日

◆アラブ連合副大統領アメル元帥、モスクワ訪問。

12月1日

◆アラブ連合のナセル大統領、ベルギー資本会社の国有化を命令。

◆アラブ連合政府、ナギブ前大統領の釈放を発表。

12月7日

◆アラブ連合とセイロン、コンゴからの撤兵を発表。

12月8日

◆アラブ連合のナセル大統領とユーゴのチトー大統領、ルムンバ首相逮捕をめぐる国連を非難し、A・A諸国に対し派遣軍の引き上げを呼びかけ。

◆アラブ連合副大統領、モスクワでフルシチョフ首相と会談。

12月10日

◆カルデリ・ユーゴ副大統領、アラブ連合訪問。

◆ソ連、シリアに約100の農工業施設を作る借款を供与。

12月11日

◆アラブ連合と西独、原子炉をアラブ連合に建設する協定および毎年学生使節団を西独に派遣する協定を結んだと発表。

12月12日

◆ナセル・アラブ連合大統領とスカルノ・インドネシア大統領、コンゴの国連軍を非難する共同声明発表。

12月18日

◆イスラエル政府は、原爆製造に関する米の問い合わせに対しこれを否定した。

12月21日

◆イスラエルのベングリオン首相、平和利用目的の原子炉を建設中と発表。

◆アラブ連合とソ連、2年期限の文化・科学協力協定に調印。

◆サウジアラビアのファイサル首相辞任し、サウド国王が実権掌握。

12月22日

◆サウジアラビアに国王親政による新内閣成立。

12月23日

◆アラブ連合のナセル大統領、イスラエルの核武装に対抗してぜひとも原爆を入手すると言明。

12月24日

◆アラブ連合と米国、米のエジプトに対する農村改善サービスに関する協定の1964年まで延期を決定。

◆アハマド・イエーメン王、政府転覆を企てたかどで甥4人を投獄。

12月25日

◆イランのジャファル・シャリフ・エマミ首相、去る8月の総選挙に不

正が多かったのでやり直しを指令。  
◆サウジアラビア、制憲会議設置を  
発表。

12月26日

◆サウジアラビアのサウド王、臨時  
憲法を公布。

12月27日

◆ヨルダン政府、イスラエル原爆製  
造説検討のためアラブ諸国会議招集  
を決定。

12月29日

◆ヨルダンの特別治安法延、マジャ  
リ前首相ら殺害の11人に死刑宣告。

12月30日

◆イエメン、英国と断交。

1961年 1月4日

◆イスラエルとトルコ、貿易支払い  
協定有効期間延長を決定。

1月7日

◆アラブ連合とソマリア、文化協定  
に調印。

1月9日

◆アラブ連合議会、FLN 支援のた  
めの対仏経済断交を全アラブ諸国に  
呼びかけ。

◆ソ連、スーダンとの貿易拡大に同  
意。

1月10日

◆ユーゴ、アラブ連合に2000万ドル  
の借款供与を発表。

1月11日

◆アラブ国際労組連盟、アルジェリ  
ア問題抗議のため仏貨ボイコット。  
◆イラクとヨルダン外交を再開。

1月12日

ユーゴ、アラブ連合の経済・工業化  
援助のため2000万ドル援助。

1月15日

◆英、アラブ連合両国、相互に大使  
を交換。

## アフリカ

11月27日

◆ガーナ、マリ両国、共同議会を平  
等代表制を基礎として両国首都で交

代に開くことにつき合意。

11月28日

◆フランス共同体のモーリタニア回  
教共和国独立。

◆国連総会で英代表は、シエラレオ  
ネは5カ月以内に独立すると発表。

◆象牙海岸の大統領選出国民投票で  
ウフェボニ首相を選出。

11月29日

◆コンゴのモブツ軍司令官、ルムン  
バ氏逮捕を命令。

12月1日

◆カサブ・コンゴ大統領、アラブ  
連合との断交を発表。

12月2日

◆コンゴのルムンバ首相逮捕さる。  
◆ルーマニアとマリ、外交関係樹立。

12月4日

◆ガーナ政府、ベルギーとの断交を  
発表。

12月5日

◆中央アフリカ憲法会議開く。

12月6日

◆米国防務省、コンゴのモブツ軍司令  
官に対しルムンバ首相に「人間的な  
待遇」を与えるよう申し入れ。

12月14日

◆エチオピアにクーデター起こり、  
ソッサン皇太子が政権樹立。

12月15日

◆エチオピア皇太子、国王に就任を  
宣言。

12月16日

◆エチオピアの反乱鎮圧さる。

12月19日

◆ロンドンで開かれた中央アフリカ  
憲法会議、アフリカ人と現地白人の  
意見折り合わず失敗に終わる。  
◆仏系アフリカ12カ国、来年1月相  
互防衛条約調印につき合意。

12月23日

◆ガーナのエンクルマ、マリのケイ  
タ、ギニアのトーレらアフリカ3首  
脳、コナクリで会議。

12月24日

◆西アフリカのガーナ、ギニア、マリ  
3国、連邦結成を決定。

◆エチオピア当局、反乱指導者ネウ  
エイ将軍ら逮捕。

1961年 1月5日

◆アラブ連合、ガーナ、ギニア、マ  
リ、モロッコのアフリカ5カ国首脳  
会議開き、コンゴ対策を検討。

◆ナイジェリア、サハラ原爆実験に  
抗議して仏と断交。

1月6日

◆アフリカ5カ国首脳会議、FLNへ  
の義勇兵募集、国民投票拒否などの  
最終決議を発表。

1月7日

◆アフリカ首脳会議、統合アフリカ  
軍司令部設置などを含むアフリカ憲  
章を発表。

1月9日

◆ガーナ、ギニア、マリ3国の統合  
委、統合計画を検討。

1月11日

◆ソ連貿易代表団、中央アフリカ連  
邦を訪問。

1月12日

◆ナイジェリア経済使節団、貿易拡  
大のため19カ国訪問に出発。

1月15日

◆ギニア初の大統領選挙で、セクー  
・トーレ現大統領当選。

1月16日

◆アバス・アルジェリア臨時政府首  
相、インドネシア訪問

1月18日

◆コンゴのカタンガ州政府、ルムン  
バ首相はエリザベートビルで投獄さ  
れていると発表。

1月20日

◆マリ国会、モジボ・ケイタ前首相  
を首相に再選。

1月21日

◆米国、ラオス国際監視委復活の英  
提案を承認。

◆A・A連帯委、カイロで2日間の  
緊急会議を開き、コンゴ、アルジェ  
リア、ラオス人民への支持を表明。